

果樹病虫害発生状況（7月）

1 リンゴ

(1) 斑点落葉病

新梢葉での発生ほ場割合は、中通りで平年よりやや低く、会津では平年並の状況でした（図1）。

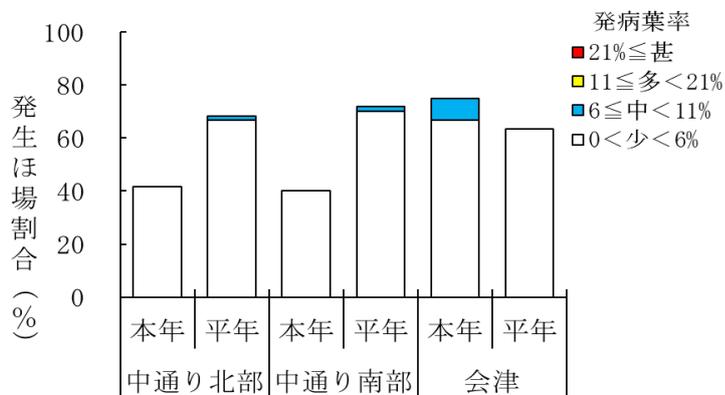


図1 リンゴ斑点落葉病の発生状況

(2) 褐斑病

新梢葉での発生ほ場割合は、会津で平年よりやや高い状況でしたが、中通りでは発生が確認されませんでした（図2）。

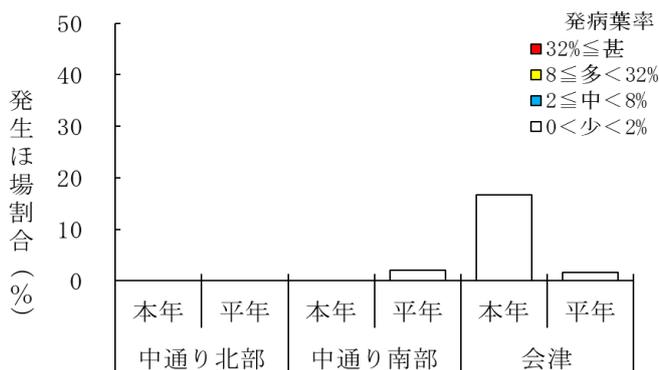


図2 リンゴ褐斑病の発生状況

(3) 黒星病

新梢葉での発生ほ場割合は、会津で平年並の状況でした（図3）。中通りでの発生は確認されませんでした。

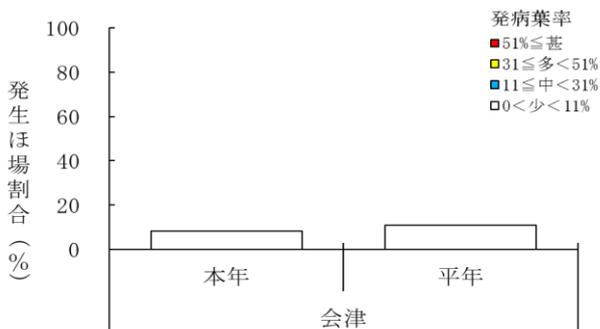


図3 リンゴ黒星病の発生状況

(4) キンモンホソガ

新梢葉での被害は、中通り、会津ともに確認されませんでした。

2 モモ

(1) 灰星病

果実での発生は、福島地域、伊達地域ともに確認されませんでした。

(2) せん孔細菌病

新梢葉での発生ほ場割合は、福島地域、伊達地域ともに平年並でしたが、伊達地域で発生程度の高いほ場が確認されました（図4）。

果実での発生ほ場割合は福島地域で平年よりやや高く、伊達地域では平年並でしたが、発生程度の高いほ場が確認されました（図5）。

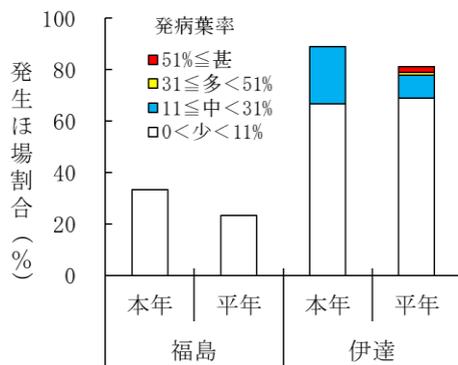


図4 モモせん孔細菌病の新梢葉での発生状況

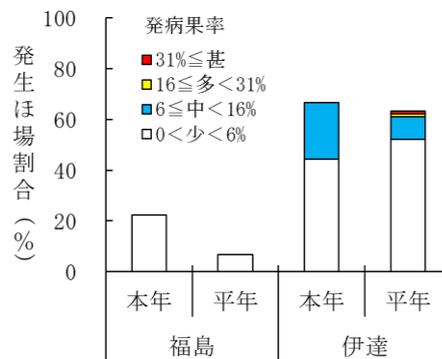


図5 モモせん孔細菌病の果実での発生状況

(3) モモハモグリガ

新梢葉での発生ほ場割合は、福島地域で平年よりやや高い状況でしたが、伊達地域では被害が確認されませんでした（図6）。

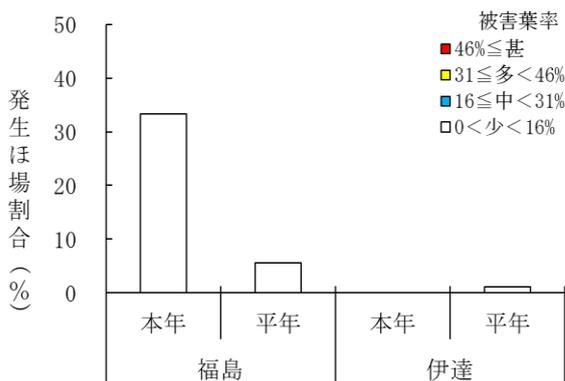


図6 モモハモグリガの発生状況

3 ナシ

(1) 黒星病

新梢葉での発生ほ場割合は、中通りで平年より高く、浜通りでは平年並の状況でした（図7）。

果実での発生ほ場割合は、中通りで平年より高く、浜通りでは平年よりやや低い状況でした（図8）。

発病葉、発病果実は伝染源となることから、徹底して除去し園外に持ち出して適切に処分してください（防除情報参照）。

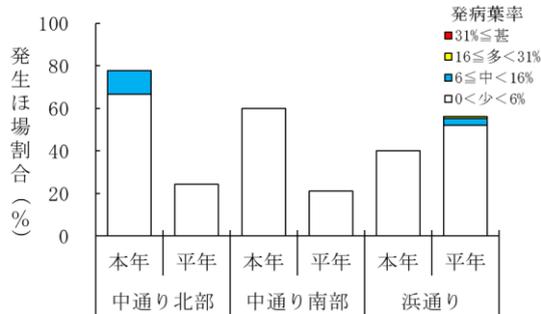


図7 ナシ黒星病の新梢葉での発生状況

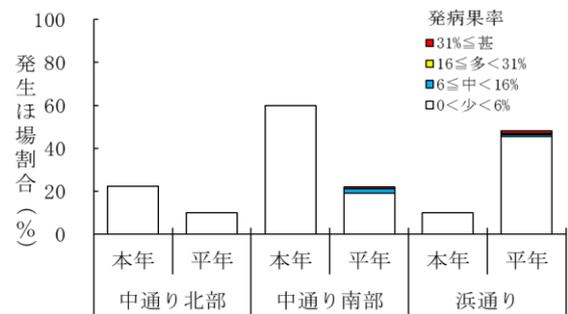


図8 ナシ黒星病の果実での発生状況

4 果樹共通

(1) カメムシ類

果実での被害について、リンゴでは各地域ともに平年並の状況であり、ナシでは被害が確認されませんでした（図9、10）。

また、カメムシのフェロモントラップ調査において、相馬市、いわき市の一部園地で7月4半旬の誘殺状況が高い状況となっています（図11、12）。

今後も、ほ場をよく観察し、飛来が確認されたら早急に防除を行い、果実被害を防止してください。

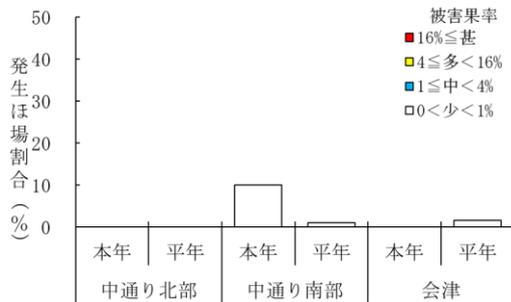


図9 カメムシ類の果実被害（リンゴ）



図10 カメムシ類の果実被害（ナシ）

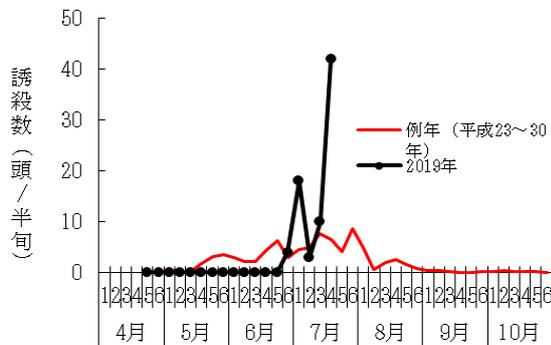


図11 カメムシ類の誘殺状況（相馬市）

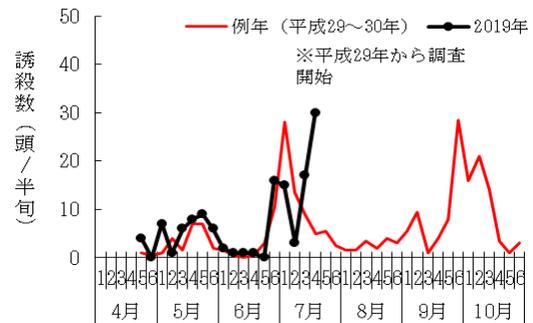


図12 カメムシ類の誘殺状況（いわき市）

(2) ハダニ類

リンゴ、モモ、ナシの寄生ほ場割合はいずれも平年並の状況でしたが、一部の地域では発生程度が高いほ場がありました（図13、14、15）。

ほ場が要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達したら、農薬の使用基準、薬剤の系統を確認した上で早急に殺ダニ剤を散布してください（防除情報参照）。

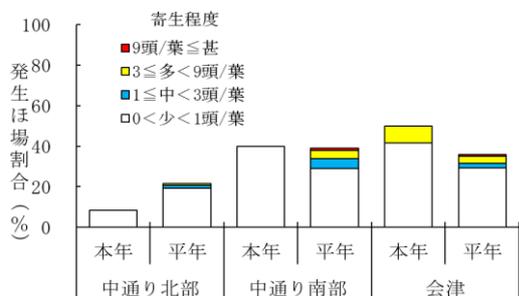


図13 ハダニ類の発生状況（リンゴ）

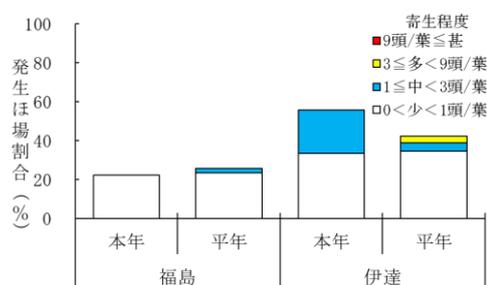


図14 ハダニ類の発生状況（モモ）



図15 ハダニ類の発生状況（ナシ）

(3) ヒメボクトウ

会津坂下町でのフェロモントラップ調査において、7月4半旬の誘殺数が平年よりもやや多い状況でした（図16）。

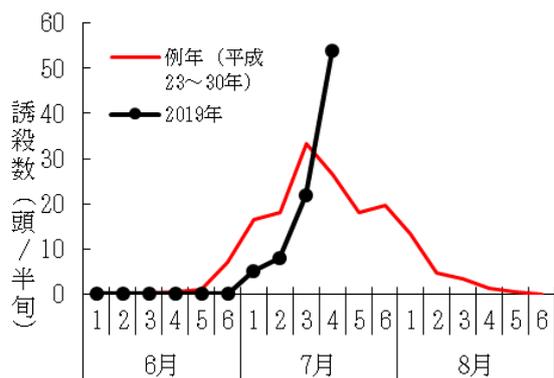


図16 ヒメボクトウの誘殺状況（会津坂下町）